

## 武庫郡大社村広田の京屋治兵衛と万石通し

細木ひとみ（当館嘱託）

### はじめに

当館所蔵の民俗資料のうち、唐箕2点と万石通し1点に「大社村廣田 本家京屋治兵衛」の墨書があり、「大社村廣田」とは現在の西宮市広田町周辺にあたる<sup>(1)</sup>。そこで、平成9年に京屋治兵衛についての聞き取り調査を行った<sup>(2)</sup>。しかし、この時には「広田の京屋治兵衛」はすでに移転しており、広田の古老からお話を伺うにとどまった。ところが、平成24年11月、常設展示している唐箕の墨書を見た山本堅治氏から「京屋治兵衛は私の祖父」と声を掛けていただき、平成25年3月にお話を伺う機会を得た。そこで、本稿では山本氏から伺ったお話を元に大社村広田の京屋治兵衛について紹介したい。また、吹田市立博物館の藤井裕之氏よりご教示いただき調査した大阪府交野市教育委員会所蔵の万石通しについても成果を記す。

### 1. 大社村広田の「京屋」

「大社村廣田」銘のある京屋治兵衛の唐箕2点（資料①、②）と万石通し1点（資料③）は以下の通りである。

資料①	唐箕（収蔵番号2783）	採集地：西宮市立高須小学校（1992年寄贈）
墨書	「武庫郡大社村廣田 本／家京屋治兵衛」	
焼印	「大阪／本家 農人橋貳丁目／京屋治兵衛製」	
資料②	唐箕（収蔵番号2807）	採集地：西宮市獅子ヶ口町（1992年寄贈）
墨書	「大社村廣田 本／家京屋治兵衛」	
焼印	「兵庫縣／武庫郡」「元」「大阪／本家 農人橋貳丁目／京屋治兵衛製」	
資料③	万石とおし（収蔵番号1248）	採集地：西宮市下大市東町（1979年寄贈）
墨書	「大社村廣田 本／家京屋治兵衛製造」	
焼印	「兵庫縣／武庫郡」「元」「大阪／本家 農人橋貳丁目／京屋治兵衛製」	

資料①～③の焼印から、京屋治兵衛は大社村広田へと移る以前は、大阪の農人橋二丁目で農具を製作していたことがわかる。さらに、資料②と資料③には、「元」という焼印をわざわざ作って押している。

山本堅治氏から見ていただいた戸籍抄本によると、祖父の京屋治兵衛は本名を山本栄三郎といい、明治3年2月に誕生した。父親の治兵衛が明治35年8月に亡くなった後、山本家の戸主となり、治兵衛と改名している。跡を継いで、農人橋2丁目で農具商を営んでいたが、大正8年に武庫郡大社村中字大畑（西宮市大畑町で旧広田村）に移転している。山本氏は、祖父の治兵衛の死後に誕生したため、実際には祖父の仕事ぶりを目にしていない。しかも、阪神淡路大震災の影響で道具類や写真などを処分したため、移転した理由はわからないという。

そこで、当館の資料を改めて見てみると、資料②は獅子ヶ口町、資料③は下大市東町より寄贈されたものであり、図1（資料④）にある改良万石を購入した上大市青年会とともに、大社村広田近くに位置している（地図1）。さらに、当館所蔵の唐箕のうち、「大坂農人橋式（貳）丁目京屋治兵衛」のみの墨書や焼印のあるものが3点あり、うち2点は櫛塚町（旧中村）と菊谷町（旧越木岩新田の下新田）より寄贈されたものであることから、大社村広田へと移る以前より現在の西宮市域は京屋治兵衛の販売（流通）範囲で

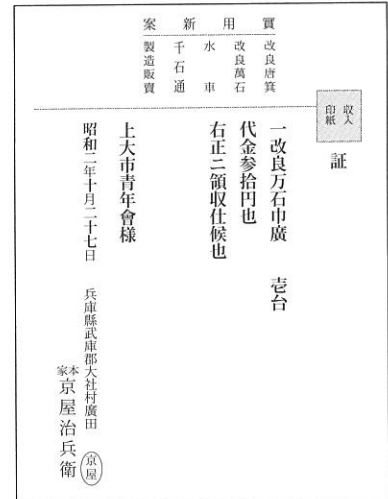
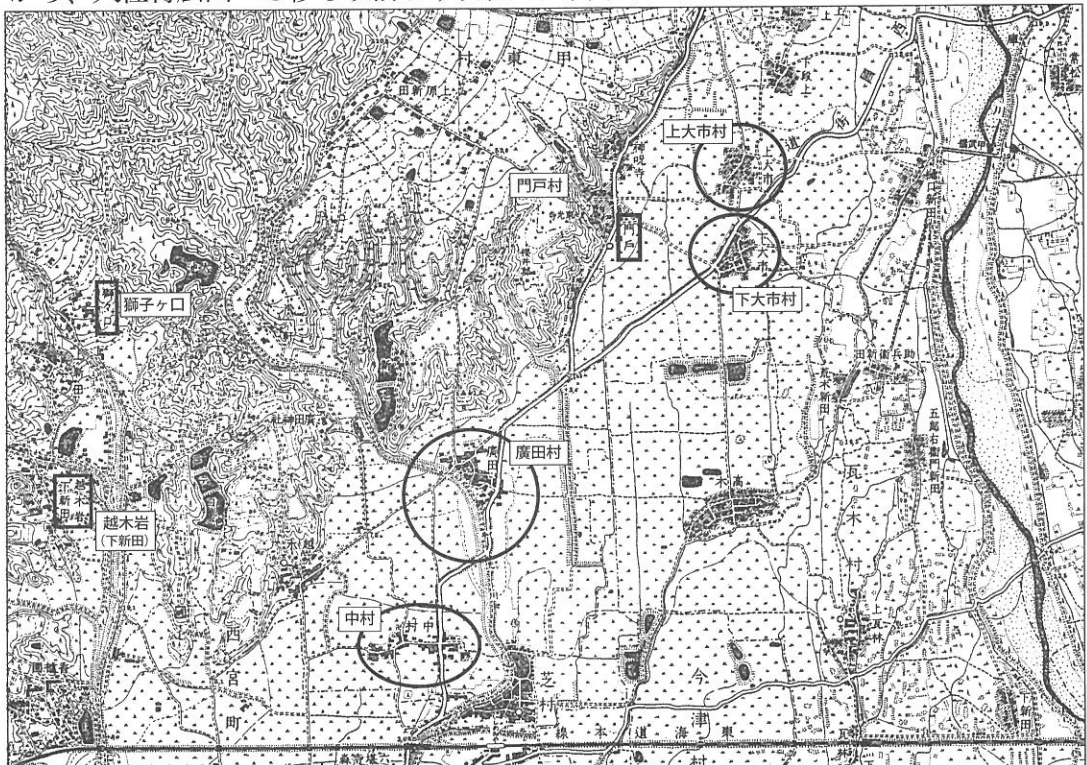


図1 上大市青年会への領収書（昭和2年10月27日発行）



地図1 明治42年の広田周辺（明治42年「甲山」、大日本帝國陸地測量部、明治44年10月刊）

あったことがうかがえる。

つまり、京屋治兵衛は商いのしやすい地として、移住地に大社村広田を選んだということになる。

## 2. 大社村広田での商い

祖父の京屋治兵衛が昭和14年2月に亡くなると、長男の健之助が跡を継ぎ、山本氏の弟と弟子と一緒に働いた。

山本氏によると、唐箕は各部品の型に合わせて木を切って作ったという。材料となる杉やヒノキは、大阪の淀屋橋の材木問屋から購入し、万石とおしやふるいの網などは、西宮の本町にある金具店から購入した。遠方から注文があると、手押し車で港や大阪駅まで運んだ。広田でも唐箕や水車、ふるい、鋤の柄などを製作しており、全国に販売していたという。しかも一時期は、広田の店舗以外にも、百姓の多かった門戸の駅前（阪急門戸厄神駅前）に農具を展示するだけの店舗もあったという。

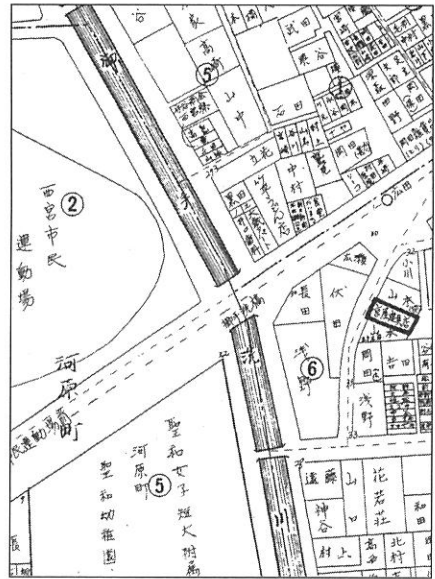
唐箕が売れなくなった戦後には、農具の修理（父親の健之助は主に唐箕の羽部分を修理）の他に、技術を生かして建具師をしていた。嫁入り道具のタンスを作って、西宮の他に、豊中、茨木、高槻周辺や淡路などへも売りに行ったという。昭和44年ごろの地図に「京屋建具店」の名前が見える（地図2）。アルミが普及しはじめ、昭和49年に廃業している。

## 3. 大阪府交野市の万石通し

大阪府交野市教育委員会所蔵の万石通し（資料⑤）は、交野市立歴史民俗資料展示室に収蔵されている<sup>(4)</sup>。墨書などは以下の通りである。

資料⑤	万石通し	採集地：交野市私部（1995年寄贈）
墨書	「兵庫縣武庫郡大社村廣田 本／家京屋治兵衛製」	
焼印	「元」「大阪／本家 農人橋貳丁目／京屋治兵衛製」	

資料⑤は、墨書より京屋治兵衛が大社村広田に移った大正8年以降に作られたものだということがわかる。資料③と資料⑤を比較すると、資料③と同じ「元」「大阪／本家 農人橋貳丁目／京屋治兵衛製」の焼印が押されており（写真1）、ともに同じ実用新案の番号が刻まれたプレートが付けられている（図2・3）。また、資料③には脚を固定するはめ込みの板（A）と排出板（B・C）があるが、資料⑤にもAをはめ込むための溝が脚にあり、Bを取り付けたと思われる金環とほぞ穴もある（写真2）。その他に、金網2枚のうち、上部の網の裏にねじが取り付けられており、下に二重



地図2 京屋建具店・昭和44年ごろ  
（『ゼンリンの住宅地図 西宮市』第三部、昭和46年12月刊）

に網が取り付けられるようになっている点や折りたたみ式である点も資料③・資料⑤ともに同じである。

交野市の万石通しは平成7年に農協から寄贈されたものであり、残念ながら誰が購入し、使用していたのか詳細はわからないという。しかし、このように交野市の万石通しと当館の万石通しを見比べると、同じ構造をしており、間違いなく、大社村広田の京屋治兵衛が製作した万石通しであることがうかがえる。

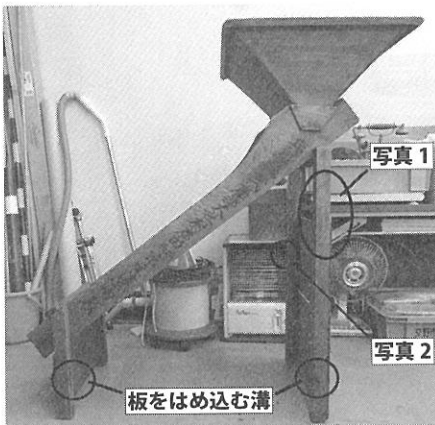


図2 交野市の万石通し  
(交野市教育委員会所蔵)

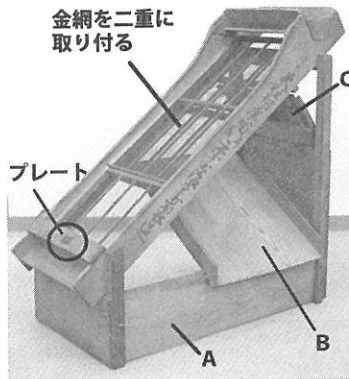


図3 当館の万石通し

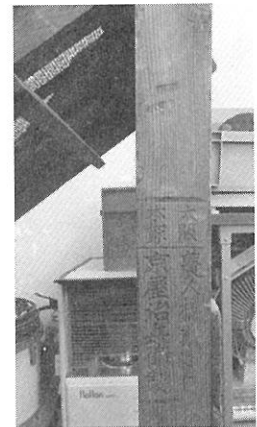


写真1 焼印  
(上部に「元」)

## むすび

大社村広田の京屋治兵衛については、これまで詳細がわからなかったが、山本堅治氏と出会えたことで新たに判明したことが多い。また、大社村広田の京屋治兵衛製の農具は西宮市内でしか発見されておらず、流通範囲が不明であったが、交野市の万石通しから大阪府内にも販売していたことが考えられた。

今後も、近隣市町村を中心に「大社村広田の京屋治兵衛」銘のある農具を探していき、流通範囲を探る手がかりとしたい。



写真2 金環とほぞ穴

【追記】本稿作成にあたり、山本堅治様、交野市教育委員会社会教育課文化財係の吉田様、吹田市立博物館の藤井様にお世話になりました。皆さまに厚く御礼申し上げます。

## 註

(1) 「大社村廣田」については、『大社村誌』（西宮町教育會、大正15年1月刊。135頁）に「明治二十二年町村制施行に依り大社村ノ内廣田村と称し昭和八年西宮市と合併に至る迄大社村廣田と改称し来れり」と記されている。

(2) 花岡佳代「西宮における唐箕・トオシの製作者—京屋治兵衛と石田豊治を中心に—」（『研究報告』第4集所収、西宮市立郷土資料館、1998年3月刊）にて報告。

(3) 『東区史』第3巻・経済篇（清文堂出版、1982年刊<1941年刊の複製版>）。

(4) 藤井裕之氏が「資料紹介：京屋製造の実用新案 改良万石通し」（『魅せる！超フォークロア 近藤雅樹ワールドの探検』所収、神戸新聞総合出版センター、2014年12月刊）で、当館所蔵の万石通しと交野市所蔵の万石通しについて報告されている。

# 生瀬地区旧蔵石造資料について

西尾嘉美（当館嘱託）

平成25年度から始まった生瀬地区文化遺産総合調査では、古文書などの歴史資料をはじめ、民俗資料、街並み、民家など、幅広く調査対象としている。現地にお伺いし、実際に調査をすることが基本であるが、これまでに郷土資料館で収集した生瀬に関わる資料の整理も並行して行っている。

今回紹介する石造資料は「生瀬地区代表者から昭和54年に寄贈を受けた」というデータだけが残されている資料である。当館の資料は、昭和60年の開館以降に収集・寄贈・購入した資料だけでなく、それ以前にあった「教育資料室」から移管された資料群も含まれている。この一群の資料には教材用の資料や教科書類などが多数含まれており、順次整理作業を進めているが、収集の目的や経緯などが不明のものが多い。生瀬の石造資料も、詳細は不明である。

この石造資料が生瀬のどの場所にあったものか。こうした石造物は、墓地や寺院の境内に置かれることが多いが、生瀬地区内には数百基を数える五輪塔・石仏類が集められた場所がある。生瀬幼稚園に隣接するこの場所は、昭和45年の浄橋寺の先々代住職の火葬を最後に閉鎖された火葬場の跡地で、火葬場の廃止後、周辺にあった五輪塔・石仏類を集積したとのことである。

収蔵品の石造資料と現地のもを比較したところ、型式・材質とも類似したものが見受けられる。寄贈に至る詳細な経緯が不明であるので断定はできないが、生瀬地区内のいずれかにあった石造物を資料として生瀬地区代表者から教育資料室が寄贈を受けたようである。

なお、火葬場のあった場所は、江戸時代末の絵図に「墓所」と記載されている地点に該当すると見られる。この絵図は浄橋寺文書に含まれており、現在行っている浄橋寺文書の再整理に合わせて、詳細な検討を進めていきたい。

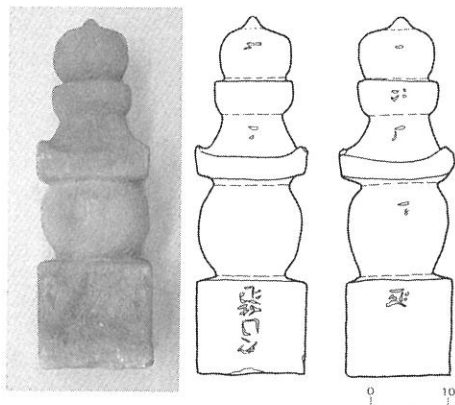
以下、7点の石造資料について紹介する。（法量の単位 cm）

## ■No1186-1 一石五輪塔

法量 12.8×13.3×44.0

4面とも全ての部位に梵字が刻まれている。表面が荒れており残存状態はあまり良くないが、涅槃門を示す5つの梵字が刻まれていると見られる。

そのうち、地輪の1面に梵字と建立者名と思われる文字があるが、判別できない。

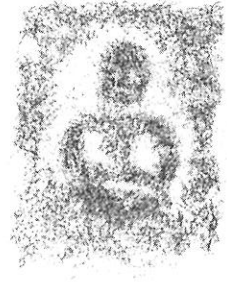
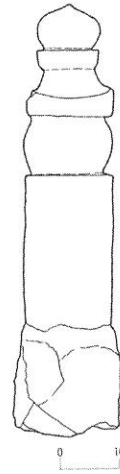
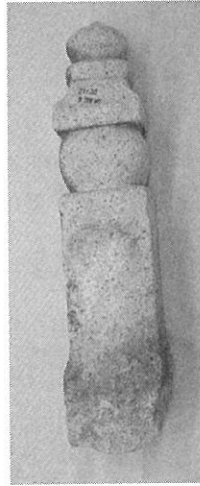


■No1186-2 一石五輪塔

法量16.8×17.5×76.0

地輪の下部の調整は粗く、地中に埋められていたようである。

地輪の1面に半肉彫の仏坐像がみられるものの残存状態が悪く、像容は判別しがたい。像高13.5cm



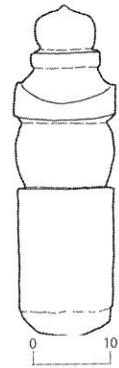
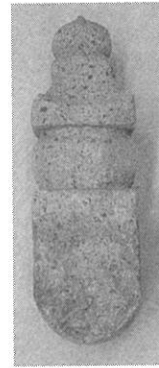
地輪 仏坐像拓影

■No1186-3 一石五輪塔

法量12.8×13.5×43.6

各部位の境界の彫りは浅いが表面の調整は丁寧である。

梵字等は見られない。

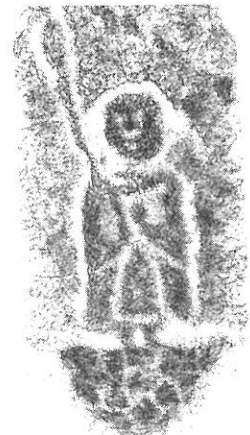


■No1187-1 地藏立像

法量30.8×15.6×52.8

上部を三角形に調えた板碑型で、中央部分に向かって少し彫りくぼめている。その中に地藏立像を半肉彫で顕す。像高23.5cm

蓮華座の上に立つ地藏立像は、体部中央から右肩に傾けて錫杖様の長い杖を持つ。表面が荒れていることと彫りが浅いため、杖上部が蓮華のつぼみにも見えるが、錫杖と見て間違いはない。



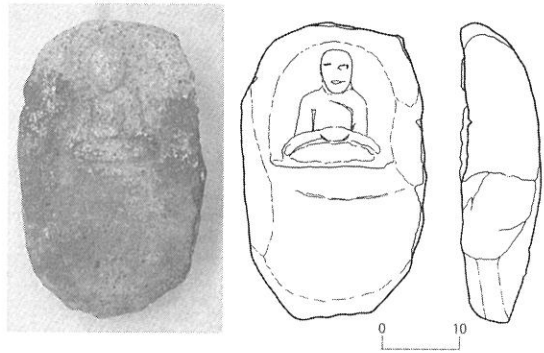
地藏立像拓影

■No1187-2 仏坐像

法量23.4×10.4×20.6

丸みを帯びた舟型で、上半分を釣り鐘型に彫りくぼめ、その中に仏坐像を半肉彫で顕す。

表面が荒れており細かな像容は不明であるが、阿弥陀坐像もしくは地藏坐像と見られる。像高14.5cm



■No1187-3 仏坐像

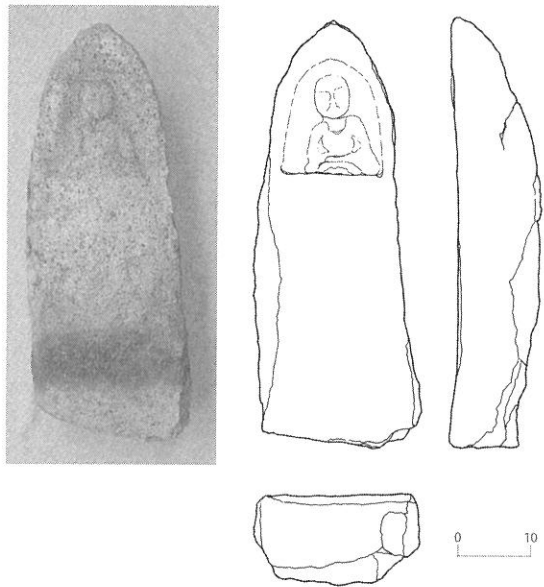
法量23.2×11.2×58.8

全体の形状は舟型で、上部を釣り鐘型に彫りくぼめ、その中に仏坐像を半肉彫で顕す。

像容から地藏坐像と見られるが、表面の損傷が著しく判別は難しい。

像高14.0cm

下部の15cmほどは、変色と調整の粗さから地中にあったと思われる。

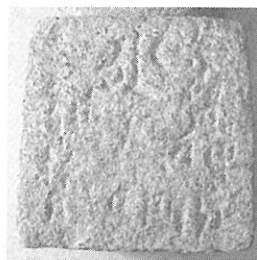
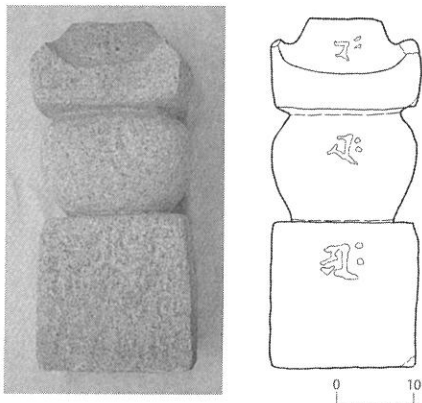


■No1188 一石五輪塔

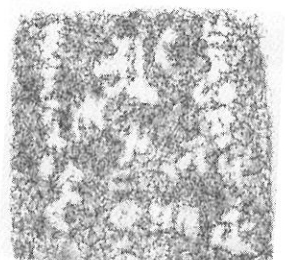
法量19.2×19.2 残存高46.4

五輪のうち、上部の空輪と風輪を欠く。

4面とも各部位すべてに梵字が刻まれている。残存状態が悪く判読が難しいが、No1186-1と同じ涅槃門を表す梵字であろう。また、地輪の1面に、梵字・年号・建立者名が刻まれていると見られるが、判読できない。



地輪



地輪拓影

興行関係資料193点（久我美子・長門裕之・南田洋子・植村謙二郎・根上淳・船越英二・石浜朗・京マチ子・中村錦之助・三国連太郎・幾野道子など映画俳優・女優のブロマイド写真、資料収集者の山田貫三などの人物写真、「芸能人野球カーニバル」・「映画人オールスター野球祭り」・「映画スター野球祭り」・「大映俳優球団パレード」・「愛の芸能まつり」等ポスター・チラシ・パンフレット、歌謡ショウ・浪曲名流会等イベントプログラム・チラシ、「映画人野球祭」・「映画人東西対抗野球試合」などの企画書・依頼状・委任状、「西宮野球大会」・「西宮芸能大会」等精算書など（大槻紘子）／市制35周年記念 西宮市全図・最新番地入 西宮市精図（花井正男）／戦時生活資料81点（大阪朝日新聞・大阪毎日新聞・朝日新聞（中部）・伊勢新聞・「宮内庁御貸下 明治天皇御写真帖」・「三十周年記念 日露戦役回顧写真帖」・大阪朝日新聞切り抜き・「宮内庁御貸下 明治天皇御写真帖」・「写真週報」・「毎日グラフ増刊 皇太子外遊画報 特集エリザベス女王戴冠式」・「毎日グラフ臨時増刊 皇后さま 60年の写真集」）（義平ひとみ）／磨製石斧1点（紅野英二）／提灯1点（岡本紀士生）／草取り機3点・がんづめ・馬の鞍（葉田春雄）

ご寄贈ありがとうございました。

第43号（平成27年7月18日刊）に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

訂正場所	誤	正
2頁 本文8行目	河野	紅野
5頁 本文4行目	その内容は、で嘉永7年	その内容は、嘉永7年

目次

CONTENTS

- 武庫郡大社村広田の京屋治兵衛と万石通し（細木ひとみ）…1  
 生瀬地区旧蔵石造資料について（西尾嘉美）…5  
 寄贈資料一覧…8